

## 「投稿規定」および「執筆要領」の改訂

(社)日本地すべり学会 編集出版部

日本地すべり学会誌「地すべり」 編集委員会

「地すべり」編集委員会では2003年度から年6回の発刊となることを機会として学会誌「地すべり」のさらなる誌面の充実と向上をめざして検討を行ってまいりました。

学会誌の「投稿規定」および「執筆要領」は2001年1月(Vol.37, No.3)に大幅な改訂を行いましたが、その後も検討を続けてまいりました結果、原稿区分の修正・加筆、査読体制の変更などを主なきっかけとして再度改訂を行うことになりました。

2003年の1月以降の投稿は下記の規定および要領に基づき原稿を作成されますよう、ご協力のほどよろしくお願いします。

2002年12月

### - 投稿規定、執筆要領の改訂履歴 -

1964年3月	制定	1985年6月	改訂
1968年4月	一部改訂	1991年6月	改訂
1973年8月	一部改訂	1997年4月	改訂
1976年3月	一部改訂	2000年4月	改訂
2001年6月	一部改訂	2001年1月	改訂

## 投稿規定

(2002年12月改訂)

1. **投稿者**； 投稿原稿の場合、著者の中で少なくとも一人は本会会員であること。しかし、編集委員会による依頼原稿の場合はこの限りではない。筆者の合計は表-1に示すとおりとし、これより多い場合には 研究グループとして、代表者による投稿とする。グループの構成はあとがきに示す。
2. **原稿の種別**； 投稿原稿は和文、英文を問わず学術誌へ未発表のものであること。原稿の種別（編集委員会からの依頼原稿も含む）は次のとおりです（詳細は表-1参照）。

なお、ここでの「地すべり」とは、「岩、土あるいはその混合物の斜面下降運動」としての広義の意味に使用されるものを対象としています。

**論文：**地すべりに関する理論的・実証的な研究、技術成果あるいはそれらを総合した知見を示すものであって、独創性があり、論文として完結した体裁を整えているもの。

**研究ノット：**地すべりに関する新しい調査・研究方法などの紹介や予報的速報、実験や観測等の途中報告で将来論文に発展する可能性をもつものや、既知の知見を確認する短報など。

**報告：**地すべりに関する現場での事例紹介や調査・解析・施工技術に関する考察など。

**討論：**本学会誌に記載された論文・研究ノット・報告に対して討論したもの。

**ニュース：**本会ならびに内外の地すべりに関係する記事、地すべり災害などについて調査された内容を緊急に報告するもの。

**巻頭論文：**地すべりの分野において、高い評価が得られた研究成果に対して、特定の主題のもとに依頼したもの。

**論説：**地すべりにおける特定の話題について、技術的な進捗や社会的な背景などをもとに、問題点を論じたり理念などを提案したもの。

**総説：**地すべりにおける特定の研究課題に対し、これまでの研究成果を整理し評価するとともに、研究が不足している領域を抽出し今後の研究方向を提示したもの。

**文献・書籍紹介など：**地すべりに関する図書・論文についての紹介・批評など。

**講座・解説・シリーズ：**地すべりにおける調査・測定・解析・対策工法などの技術に関する講座や用語解説、および企画シリーズ。

**その他：**学会の活動に必要なもの。

3. **投稿原稿の受付；** 受付は随時おこないます。受付日は事務局が到着した原稿の内容を確認した日とします。ただし、討論原稿の場合の受付は、対象とする論文等の掲載後、6ヶ月以内とします。受付原稿

は台帳に登録され、投稿者には受領証が送付されます。原稿は掲載後に返却します。

4. **査読**； 編集委員会では、各分野における専門家に投稿原稿の査読を依頼し、その意見をもとに委員会で審議した上で、掲載の可否を決定します（査読要領参照）。査読者数は表-1 に示すように論文などでは2名、そのほかの場合は1名で行います。

投稿者（著者）は査読結果をもとに編集委員会から原稿に関する照会あるいは修正依頼があった後、45日以内に回答する必要があります。編集委員会は回答期日が超過し連絡の無い場合、査読を打ち切ることがあります。

5. **投稿原稿の書き方**； 投稿原稿は執筆要領を参照して作成すること。

(1) **図表およびページ数**： 図・表・写真を含む刷り上がりページ数は、「論文」、「巻頭論文」および「総説」の場合は10ページ、「研究ノート」、「討論」、「ニュース」、「論説」、「講座および解説」は4ページ、「報告」は8ページ以内とします。超過分は2ページを限度として認めますが、原則として超過分の費用は著者負担とします。また、白黒印刷を原則としますがカラー印刷を希望の場合も著者負担となります（表-2）。

(2) **言語**： 原稿は和文、英文のどちらかとします。

(3) **図表の大きさ**： 図表は原則として片段（巾8cm）または両段（巾17cm）で割り付けます。原稿には刷り上がり希望サイズ（片段・両段）を明記してください。また、文字・罫線は縮小してもはっきりと判読できるよう大きさ・太さを十分に考慮願います。

(4) **要旨**： 「論文」、「研究ノート」、「巻頭論文」、「総説」には200字程度の要旨の添付が必要です。和文原稿には和文要旨と英文要旨の双方を、英文原稿には英文要旨を付けること。要旨は学会誌に掲載されます。

(5) **キーワード**： 要旨がある場合には要旨の下に1行空けて2～5語のキーワード（和文原稿の場合は和英併記、英文原稿の場合は英文）を掲示すること。「報告」などの場合はキーワードのみのページに掲示すること。

(6) **提出部数**： 提出部数は図・表・写真を含めた鮮明なコピー3部

とします。正原稿は査読終了後の最終原稿として提出することになります。投稿者は事故および校正にそなえて必ず原稿の控えを用意してください。なお、最終原稿（印刷原稿）の提出時にはフロッピー - もしくは MO ディスクを添付すること。

- 6 . 著作権 ; 掲載された論文などの著作権は学会に帰属する。
- 7 . 別刷り ; 著者は論文などの掲載時に 30 部以上の別刷りを有料で申し込む必要があります (表-2)。ただし、依頼原稿の場合は 30 部まで無料で送付します。
- 8 . 投稿票 ; 投稿に際しては、表-3 に示す投稿票を添付してください。著者名の英文表示は、名前(First name), 名字(Family name)の順とします。例 : ( Hanako AYANOKOUZI )。  
なお、投稿票は “ 地すべり学会ホ - ムペ - ジ ” からダウンロードできます。
- 9 . 料金の振込み先 ; カラ - 印刷、超過ペ - ジ、別刷りなどの費用は請求金額を確認の上、表-2 に示す口座に振込んでいただきます。
- 10 . 投稿および問い合わせ ; 投稿・編集、その他問い合わせ等は下記へお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-30-7 加賀ビル

「地すべり」編集委員会

Tel . 03-3432-1878 Fax . 03-5408-5250

E-Mail office@landslide-soc.org

地すべり学会ホ - ムペ - ジ

<http://japan.landslide-soc.org/>

## 1. 原稿の構成

**投稿票**：表-3 に示す投稿票に必要事項を記載したもの。

**要旨、キ-ワ-ド**：「論文」、「研究ノ-ト」、「巻頭論文」、「総説」に添付する要旨は和文原稿の場合は和英併記で、英文原稿の場合は英文とする。キ-ワ-ドも同様に和文原稿の場合は和英併記で、英文原稿の場合は英文とする。

**本文**：和文、英文いずれでも可とします。

**引用文献または参考文献**：本文の言語に従う。

**図表・写真**

## 2. 原稿用紙、ペ-ジ数

原稿は、和文の場合 A4 (縦) 版の上質紙に 25 字×25 行 (横書き、文字の大きさは 12 ポイント程度、行間 6mm 程度 - 図-1 参照 -)、英文の場合 A4 版の上質用紙にダブルスペースで約 10 ワ-ド×25 行で、ワ-ドプロセッサ、タイプあるいは原稿用紙で作成すること。刷り上がり 1 ペ-ジは 2,500 字で、和文の場合は原稿用紙 4 枚、英文の場合はタイプ用紙約 2 枚に相当します。

## 3. 文章、文体および書き方

### (1) 本文の見出し番号

第一順位 (章) 1 . 2 . 3 . . . . .  
第二順位 (節) 1.1 1.2 1.3 . . . . .  
第三順位 (項) 1.1.1 1.1.2 1.1.3 . . . . .  
脚注記号 \*1, \*2, \*3, \*4, \*5  
参考文献番号 1) 2) 3) 4) 5) . . . . .

### (2) 文章の書き出し

見出しの後は改行し、1 マス空けて本文を書き出すこと。ただし、第一順位 (章) の見出しの後は 1 行空けること。

### (3) 句読点、カッコ、脚注番号、参考文献番号など

この場合、1 マス分当てること。

### (4) 用語・用字・式・記号など

地名・人名などの難読漢字にはふりがなを付ける。

数字はアラビア数字（3 単位ごとにコンマを入れる）、物理量をあらわす文字にはイタリックを用いること。

単位は原則として SI 単位を用いること。

例：単位体積重量 9.8kN/m<sup>3</sup>

応 力 9.8Pa

数式は 2 行どりとし、文章中での数式は 2 行にわたらない形（たとえば  $(1 - 2)f / 2$ ）とすること。

式を書く場合には、式で用いられる記号が最初に表われる箇所に記号の定義を行うこと。

数式の後に「・・・（）」を入れ、（ ）内に通し番号を入れること。

数字・英字・ギリシャ文字およびそれぞれの大文字・小文字のうちには紛らわしいものが多いので、明確に記載すること。（たとえば 0、0、o など）。

数式・数量・記号・単位記号などに含まれる「上付き」「下付き」などの文字や数字もはっきり記載すること。誤記の可能性があると思われる場合は、鉛筆で余白に指示を記入すること。

#### (5) 図・表・写真

図・表・写真には、図-1、表-1、写真-1、Fig.1、Table 1、Photo 1 のようにそれぞれ通し番号をつけること。

図・表・写真は本文中に貼ったり書き込んだりせず、それぞれ別添とし、本文中の挿入位置を原稿用紙欄外に指定すること。

また、図・表・写真の原稿には刷り上がり希望サイズ（片段・両段）を記入のこと。

「論文」、「研究ノート」、「巻頭論文」および「総説」における図・表・写真の表題・説明文は本文が和文の場合、和・英併記とし、本文が英文の場合は英文とする。また、表題と説明文の区分を明確にしておくこと。

図はそのまま製版できるよう白色か透明の紙に墨または黒インクで明瞭に描き、刷り上がり寸法の 2～4 倍で最大 B4 版の大きさとする。その際、縮小されても縮尺や図中の文字・罫線などがわかるようにすること。

複雑な表もそのまま製版できるよう、明瞭に描くかタイプしたものとすること。

写真は印画紙（光沢紙）に焼き付けたもの、あるいはプリンタ等で印刷したものを添付すること。写真の天地を誤る恐れがある場合には、裏面に上下の印をつけること。また、原稿がカラ - 写真で刷り上がりモノクロ印刷の場合、コントラストが不鮮明になる場合があります。特に文字・矢印などを書き込む場合や鮮明なコントラストが必要な場合には判別ができるよう注意すること。

表・写真等を他の著作物から引用する場合には、出典を必ず明記し、かつ必要に応じて原著者の了解を得ること。

特殊な図版（折り込み、色刷りなど）は原則として著者の実費負担となります。また、製版に不適当な図版は書き替えることがあります。これに要する費用も著者負担となります。

#### (6) 引用文献・参考文献

下記、の形式のいずれかを使用すること。

文献の右肩上に番号と片カッコを付け、この番号順に文末にまとめて記載する場合。

- 1) 大河原正文・三田地利之・棚田真・藤村正二・米田哲朗(2000) : 繰り返し一面せん断試験によるカオリン粘土のせん断面の構造と形成過程,地すべり,Vol.37,No.2,pp.1-9.
- 2) 竹田幹郎・張銘・江崎哲郎・高橋学・三谷泰浩(2000) : 岩石の透気特性および水理学的異方性に関する実験的研究,応用地質,Vol.41,No.4,pp.210-217.
- 3) 藤田崇(1999): 地すべり現象の規模,第38回地すべり学会研究発表講演集,pp.1-4.
- 4) 古谷尊彦(1996) : ランドスライド - 地すべり災害の諸相 -,古今書院,213p.
- 5) Ohkouchi,M.,Saitoh,T.,Adachi,H.and Miyamura,S. (2000) : Stratigraphy of terrace deposits and landslide masses along the Arakawa River,Oguni Town,Yamagata Prefecture,Jour.of Japan Landslide Soc.,Vol.37,No.2,pp.62.
- 6) Varnes,D.J.(1958) : Landslide Types and Processes, In Landslides and Engineering Practice(Eckel,E.B.,ed.), HRB, Special Rept.29,pp.20-47.

本文中に著者名と発表年数などを示す場合。

この場合、引用文献は著者名のアルファベット順に記載し、本文中には、該当著者名に（年号）あるいは、事項に（著者名、年号）をつけて引用すること。なお、同一著者名で同一年号の場合には、年号の後に発表順に a.b.c をつける。この場合も 同様に、著者名（年号）：論文名、雑誌名、巻号、引用ページ順に書くこと。

#### (7) その他

文中の脚注は \* 印を入れ、そのつど原稿用紙の下部に記載すること。刷り上がりでは脚注は各章の段落に入ります。

著者校正は原則として初校 1 回とします。校正の段階での加筆修正は原則として認めません。特に英文の本文・要旨については、事前に十分な推敲をおこない、完全原稿を送付してください。

なお、表-1 に原稿区分とその内容、表-2 に著者負担の場合の概算費用、また図-1 に原稿仕様、図-2 に投稿論文の場合の送付資料を、表-3 には投稿票を示した。